センターだより

第51号

令和７年８月１日

編集・発行　東京都立心身障害者口腔保健センター（指定管理者：公益社団法人東京都歯科医師会）
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ8F･9F　電話03-3235-1141(代表)／03-3267-6480(予約･診療)

神経発達症の方への歯科診療のヒント

令和6年4月１日から事業者による障害のある人への「合理的配慮の提供」が義務化され1年が経ちました。歯科医院もこの義務化の対象であり、障害のある人が安心して診療を受けられるように、様々な配慮を行うことが求められます。今回は、神経発達症の方の歯科診療を進める上ですぐに実践できる基本的な対応方法について、いくつかご紹介します。

神経発達症とは

神経発達症は、生まれながらの脳の働き方の違いによる疾患の総称であり、主な疾患として、知的能力障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症などがあげられます。歯科の場面では、未体験なことへの不安の強さ、感覚過敏（音、光、におい、触覚）、歯科診療への理解やコミュニケーションの困難性、多動・衝動性などが、円滑な歯科診療を妨げる要因となることがあります。

同じ疾患名でも特性の現れ方に違いがあったり、複数の神経発達症が併存している場合もあります。事前に保護者や介助者から、患者さんの特性、苦手なこと、得意なこと、不安を感じやすい点などについて情報収集しましょう。

診療のポイント

TLC（Tender Loving Care）

基本的には低年齢児に対する対応と同様で、個々の発達段階と個体特性を考慮し、やさしく愛情をもって丁寧に接します。

感覚過敏への理解・配慮

過敏の状況に応じて耳栓やイヤーマフ、サングラスの使用も効果的です。

簡潔で具体的な声かけ

抽象的な表現や説明が長いと理解が難しいため、短く分かりやすい言葉で具体的に指示を出します。また、一度に複数の人が指示を出すと混乱するため、指示の声かけは1対1で行います。

育児の原則の応用

診療で使用する器具・器材を日常的な例えで患者がイメージしやすい言葉に置き換えたり※1、一つ一つ見せて説明しながらやって見せる※2、数を数えて我慢の見通しを立たせる※3、頑張ることができたらよく褒めるなど、育児で見られる対応方法を応用します。

※1 婉曲語法
【例】ミラー→鏡　バキューム→掃除機
3Wayシリンジ→風、シャワー

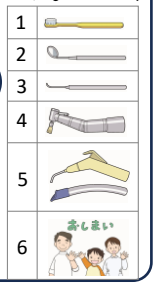
※2 Tell-Show-Do（TSD）法
「話して」「見せて」「行う」方法

※3 カウント法
「10やってみよう」などと時間を提示し、1から数えながら行う方法

視覚支援と構造化

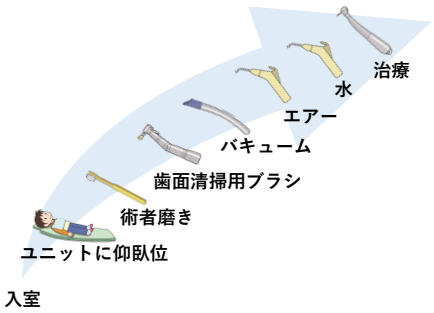
言葉だけのコミュニケーションが困難な場合は、視覚支援（絵カード、写真など）を用いることで理解が可能な場合があります。特に、自閉スペクトラム症のある人は、視覚優位の特性を持つ人が多い傾向があると言われています。また、順番を付加すること（スケジュールの構造化）によって見通しが立ち不安の軽減につながります。

絵カード使用例



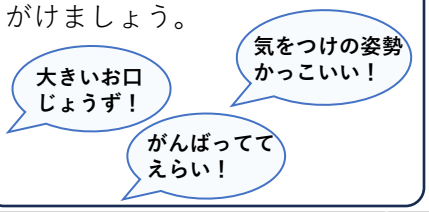
段階的アプローチ

患者さんの個性と能力に合わせながらスモールステップで簡単なこと（刺激の小さいもの）から始め、適応状態を確認し徐々に歯科治療を進めていきます。



賞賛

患者さんが望ましい行動ができた時には、どんな小さなことでもその場ですぐに褒めることで正の強化因子となります。大げさなくらいに一つ一つを褒め、自信につなげます。ただし、望ましい行動ができていないにもかかわらず安易に褒め言葉をかけることはせず、メリハリのある対応を心がけましょう。



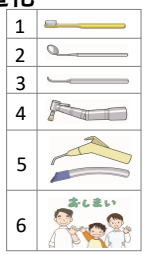
①入室

BIMアプローチ（歯ブラシ導入）

初めての場所で何をされるかわからないと誰でも恐怖心をもち緊張します。そこで、経験したことのある歯磨きから始めることで漠然とした不安を緩和します。

治療手順（スケジュール）の構造化

絵カードが有効的との報告は多くみられますが、ただ絵を見せれば良いわけではありません。始めに今日やることを一目で分かるように示し、どこまでやったら終わりなのかを明確にすることが大切です。



②診査

開口できない患者には誘導が必要になります。まずは口腔周囲に触れ脱感作をし、口腔周囲筋の緊張を和らげます。

開口誘導

オトガイに人差し指を当てて押し下げる

口腔前庭に人差し指を入れ指の腹に力を入れて押し下げる

K-point

頬側歯面に沿って指を挿入しK-point付近を圧迫し開口反射を促す

開口誘導したのち開口保持が困難な場合は、開口器やガーゼブロック等を使用します。

③治療

診査まではなんとかできるけれど、実際治療となるとなかなか協力性が得られないケースがよくあります。そこでセンターで行っている行動調整法をご紹介いたします。

Tell-Show-Do：使用する器具を視界に入れ声をかけてから口腔内に挿入します。ただし注射筒はなるべく視界に入れず見せないようにして使用します。（図1-3）

指示の声掛けは1人：たくさんの人から‘口開けて’‘見るだけ’など声をかけられると情報量が多く患者は処理をするのに大変です。基本的には術者が司令塔になり声掛けをする方が伝わりやすくなります。

図1 Tell

図2 Show

図3 Do

ついやってしまいがちな対応

「すぐ終わるよ」 → 人によって‘すぐ’の概念は異なります
10秒で休憩/①～⑤までやったら終わりetc 具体的に伝えてください

「痛くないよ、ちっくんするね」→ 痛いの概念も人それぞれで浸麻の刺入時は痛いと感じる人が多いです
歯茎をつねるね！グッと押すよ！などの表現に変えます

「何もしないよ、見るだけ」 → 本当に診査だけの時は良いですが治療時やクリーニングでの来院の際は嘘になってしまいます

「今日は上手にできたからもう1本やろう！」
→ これは一見よさそうにも感じ、連れてきてくれる保護者にとっては来院回数も減らせるのですが、本人にとっては「え！頑張ったのに」と努力をしても逆にタスクを増やされることになります

嘘はつかず、約束を守りましょう

障害者歯科や口腔保健、福祉への知識や理解を深めることを目的に、都内在勤・在住の歯科医師、歯科医療従事者を対象とした研修会を無料で開催しています。
個別研修は、講義で学ぶ基礎コースと臨床実習を中心としたアドバンスコースなど、少人数で学ぶ研修会です。ぜひご参加ください。

R7年度個別研修会【基礎コース】

第2回　第3回

＜参考文献＞＊本文中の写真は「スペシャルニーズデンティストリーハンドブック」（東京都立心身障害者口腔保健センター，2015）より引用